

# 熊本県農業計画のあらまし

## 総論と地帯別計画

近時、日本農業は、激しい農業労働力の流出、米の生産調整、貿易の自由化などで大きな困難に直面している。本県農業も例外ではない。この困難を克服するため、昭和五十二年を目標年次として全国有数の食糧基地としての高生産性農業の実現を目指して、「熊本県農業計画」の策定作業を行ない、昨年九月できあがった。千二百四十頁の大冊だが、ここに概説と各地帯別計画を要約して参考にするものとした。

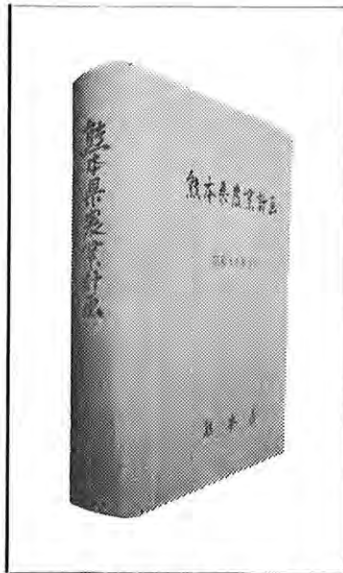
### 農業計画の基調

新しい農業計画では立地条件を尊重することを第一として、先ず県下を大きく四つの農業地域に区分、さらにこれを二つの農業地帯に細分して、それぞれの地帯の農業をめぐる必然性や発達の段階を踏まえ、これに農家の志向を反映しながら、今後の方向を定めた。(図1)

次にこの計画は、本県農業の発達の段階から推して、その重点を農業経営構造の改善と流通加工対策の強化の二点におくこととし、さらにその実現のため、特

に生産基盤の整備と農家の就業構造の改善に大きく考慮を払い、また時代の流れに即して新しい生活環境の整備を含めて五つの柱を立てた。

そして計画の展開は、特に先駆的な経営者を中心に幅広く農家の方々の密着をはかり、その創意と「論より証拠」の実践に期待し、さらに農協の広域、合併を推進し、その機能の強化と拡充を軸とした高生産性農業の形成と流通構造の改善を重視した。



「熊本県農業計画」書

図1  
農業地域および農業地帯区分図

